

羽曳野市学校図書館ニュース 第 20 号

平成 29 年 12 月発行：羽曳野市学校図書館司書会

レファレンスサービスを知っていますか？

・・・本の相談、おまかせください！・・・

「ねえ、なんかおもしろい本おしえて！」「今度授業で調べ学習をしたいのですが…。」
学校図書館では、日常的に本の貸出・返却や予約だけではなく、利用者のさまざまな質問（レファレンス）を受け、それを解決するためのお手伝い（レファレンスサービス）をしています。今回は、実際にあった レファレンス Q & A をご紹介します。

このホネ、なんのホネ？（小4）

遠足で行った河原で、動物の歯みたいな骨見つけてん。（実物を見せて…。）
動物の骨の本ある？ 調べる学習コンクールにも出してみたいなあ。

担任の先生から、図書館に来るだろうと聞いていました。そこで、学校所蔵の本から数冊選んでおき、一緒に本を調べてみました。

歯のようすを見ると、どうも草食動物のような気がするなあ。牛や馬などの骨格の本をもっと見たい。

『ホネホネたんけんたい』
（松田素子／アリス館）



『ホネからわかる！
動物ふしぎ大図鑑』
（富田京一／日本図書センター）



市立図書館にレファレンスをする、連絡便で7冊届きました。
『スカル アラン・ダドソーの驚くべき頭骨コレクション』（サイモン・ウィンチェスター／グラフィック社）を見るが、やはり確証がもてないので、「大阪市立自然史博物館」に行くことを勧めました。夏休みに行けるように、交通アクセスや質問の仕方などの説明をしました。

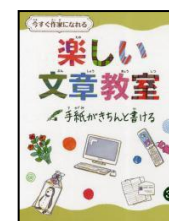
しかし、結局夏休みになって、本人はすっかり骨のことを忘れてしまったようで、骨だけ図書館に残された…という、ちょっと残念な！？結果となりました。

手紙の書き方、知りたい。（小6）

手紙で先生にあやまりたいから、書き方を知りたい。

8類（言語）の本棚に行き、Y君と一緒に本を探しました。「一番さいしょに、ごめんねって書いているね。」「ていねいな字で書くこと、どこが悪かったのか考えながら書こうって 書いているね。」と話しながら本を選びました。

最終的に
Y君が選んだ本



『今すぐ作家になれる 楽しい文章教室3
手紙がきちんと書ける』
（井戸佳奈／教育画劇）

『手紙を書こう！3巻 手紙のちから』
（山崎順子／すずき出版）

保健委員会で紙芝居をしたいです。（中・教師）

保健委員会で、小学2年生の子どもたちに、絵本や紙芝居の読み聞かせをしたいのですが、“早寝早起き朝ごはん”がテーマで、いいものはないですか？

市立図書館や、他市の図書館から絵本と紙芝居を取り寄せましたが、希望に添えるものがありませんでした。また、他校の司書にもレファレンスをかけて、情報を集めました。結局、インターネットで改めて調べると、「早寝早起き朝ごはん全国協議会」(<http://www.hayanehayaoki.jp/download.htm>)が紙芝居を作成していたので、利用許諾をとり、ダウンロードして提供しました。

紙芝居『よふかしおにと はやねちゃん』（やなせたかし）は、内容がとても良いということでした。司書は、紙芝居の練習でアドバイスをしたり、本番にも参加しました。

レファレンスによって そだつ図書館

学校図書館は、子どもたちにとって一番身近な図書館です。さまざまな興味、関心にできるだけ応えてあげたい、また先生方の授業を支える場所でありたいと、日々務めています。

また、レファレンスをうける中で、利用者の求めている資料が分かり、図書館の蔵書構成も変わっていきます。魅力的で役立つ図書館に成長していく上で、とても大切にしている図書館のサービスです。

どうぞ、気軽にレファレンスサービスをご利用ください。

先生、教室で読んでみませんか？Part.2



まるごと読んであげるなら...



『ゆかいなさんにな
きょうだい1
きえたおかしのみき』
たかどの ほうこ／文
アリス館

おかしがきえた！たべたのは、いちろう？じろう？それとも、さぶろう…？いえいえ、「あたし〜」。
『みどりいろのたね』でおなじみ、たかどのほうこさんのゆかいなおはなし。
『なきむしぞうきん』『すごいはたき』とあわせて読んであげて下さい。



『にんじんの
にんにん』
ふるや かおる／文
アリス館

一億本のにんにんが
いるみたい！
(4年生女子)

春になり、目がさめた いっぱいの「にんじんのにんにん」ぐんぐんどんどんのびるの術や、一粒万倍分身の術を使い、いっぱいのにんにんになった。
いっぱいのにんにんのページは大迫力です。元気よく読んでください。



『あおのじかん』
ゲ・ベル・シルール／文・絵
石津 ちひろ／訳
岩波書店

夕ぐれの水色からページをめくると、深まっていく青色。やがて月が輝き、夜の闇につつまれる。ページごとに美しく描かれている青い生き物たちと共に静かな青の世界をあじわえる。
32の[あお]の色の名前も楽しいですよ。ゆっくりと『あおのじかん』にひたってください。

ちょっと頭の体操？！



『世界のなぞかけ昔話1
どうしてかわかる?』
ジャージ・ジャンソン／文
ピーター・シス／絵
福本 友美子／訳
晶文社

高学年から中学生におすすめの1冊。ちょっとした時間を利用して、一緒になぞかけを考えてみてはいかがでしょうか。
1ページ程度の短いお話と、次のページにたねあかし。本の苦手な子も楽しめます。大人でも発想を変えないと解けないものもありますよ。

ちょっとずつ読み聞かせするなら...



2年生の担任の先生が、毎朝1章ずつ読み聞かせをされました。



『きょうりゅうが学校にやってきた』
アン・フォーサイス／作 熊谷 鉦司／訳
むかいながまさ／絵 金の星社

授業中、教室の窓から外をみていたら、校庭のむこうからきょうりゅうのこどもがあらわれ、教室の中に入ってきたので、学校はおおさわぎに。



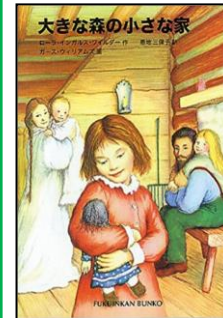
『夜の小学校で』
岡田 淳／作・絵 偕成社

桜若葉小学校で夜警のしごとをするようになったぼくが、はじめての見まわりで見たものは、運動場にすわっている大男だった。
子どもたちにとって身近な、小学校が舞台のわくわくドキドキする不思議なおはなし。



『黒ネコジェニーのおはなし1 ジェニーとキャットクラブ』
エスター・アベリル／作・絵 松岡 享子・張替 恵子／共訳 福音館書店

はにかみやの黒ネコ ジェニーの成長がほほえましい短編集。通りの猫たちの集会“キャットクラブ”のメンバーになるには、なにか特技が必要なのに、自分は「なにひとつできない」と思ってしまうジェニー。クリスマスの日 アイス・スケートをはいて、個性的なメンバーに仲間入りをはたします。ジェニーの飼い主、キャプテン・ティンカーの さりげないあとおしも素敵です。



『大きな森の小さな家』
ローラ・インガルス・ワイルダー／著 恩地 三保子／訳 福音館書店

100年以上昔の北アメリカを舞台に、DIY 精神に満ちた、あたたかな一家の1年を臨場感いっぱい描いた物語。とにかく何もない森に住む一家！
ブタの膀胱で風船を作り、木からとった蜜を雪に垂らしてキャンディーを作る。料理もおもちゃも、身の回りの生活用品も全て手作り。生きる力が湧いてきます。

